

6. 学会に行こう！

学会にまつわるエピソード・

学会を楽しむためのポイント

研究初心者のはじめさんが、先輩のまなぶさん、いくこさんと話をしています。



はじめさん



まなぶさん



いくこさん



学会発表って考えただけでも緊張するのですが、何か良いこともありますか？



それはやっぱり、やり切った充実感だね。同じ研究をしている人たちの発表を聞いたりするのも参考になるよ。



そうね、学会に参加する意義って、シンポジウムで新しい情報を聞いたり、知識の整理ができると思うわ。



他にも、企業展示などの展示ブースがあって、最新情報を得ることができるよ。

6. 学会に行こう！

学会にまつわるエピソード・

学会を楽しむためのポイント



ランチョンセミナーで食べるご当地の特注お弁当も、
楽しみのひとつね。



学会って、いろいろな楽しみがあるのですね。



いろいろ失敗もあるけどね。



あるある。
それも後になれば良い思い出になっているよ。



学会にまつわるエピソードをまとめたら、みんなの参
考になるんじゃないかな。



賛成！
院内の色々な職種の方にエピソードを聞いてみよう！

研究初心者のはじめさんが、先輩のいくこさんに話を聞いています。



やってよかった！初めての学会発表のエピソード①



今度初めて学会に行きたいと考えているんだけど、初めて学会参加したのはいつぐらい？



学会デビューはね～、看護師2年目の日本糖尿病学会地方会（つくば）だった。雪が降って、めっちゃ寒かったのよ。発表の中でも特に緊張したのは質疑応答だったかな。質問がこないように数日前から祈ってて、それをみた共同研究者の先生が想定質問と回答の原稿を作ってくれたの。



そっか～、やっぱ質問は緊張するよね。何聞かれるかわからないから、その先生のご厚意はありがたいね。



そう本当にありがたかった。

でもね～、実際に質問があった時は頭が真っ白になってしまって、共同研究者の先生の姿を探して代わりに答えてもらったんだよね。情けない気持ちになったの憶えてる。



緊張するよ～きっと私も頭真っ白になりそう。

もし、緊張でうまくいかないことがあっても、共同研究者のメンバーの助けって、本当嬉しいし心強いね。



準備ももちろん大事だけど、一生懸命発表するというのも大事なことだと思ったよ。



やってよかった！初めての学会発表のエピソード②



共同研究者の先生方との親交が深まりました。

また、発表後に同じような研究をしておられる他施設の先生方に声をかけていただき、その後共同で研究をすることができました。遠方の先生方ともネットワークをつくることができました。一人で研究すると煮詰まりますが、仲間の様々な意見を通して研究が深まったり視野が広がったりすることを実感し“やってよかった”と思いました。

また、質疑応答から研究の足りないことに気付いたり、アドバイスももらえることもありました。「次はこんな研究をやってみよう！」というひらめきがあり、モチベーションUPにも繋がりました。（いくこさん）



学会にまつわる、思い出すと恥ずかしいエピソード



発表1週間前までにスライドを完成させることができ、

「もう完璧！」と思って学会初日にデータ登録を終えたので、学会最終日の発表まで余裕で過ごすはずが、ノートPCでスライドを確認していると、いくつもの間違いに気づきました。

翌日データ登録デスクの方に理由を説明し修正をしました。

プレゼンの練習をすると、また気になるところが出てきてしまったので、再度修正をお願いし、結局3回データ登録デスクにお世話になったことがありました。3回目の時には、登録デスクの方々に顔を覚えられてしまったのか、係の方は私を見るなりニッコリしながらPCに招いてくださり、私は大汗をかきながら修正させてもらったのでした。（まなぶさん）



学会の昔と今を比べてみると

WEB参加の恩恵①

最近ではWEB参加が可能となり、育児中で現地に参加できない場合でも学習機会を得ることができるようになりました。また、地方から参加していると、いつも飛行機などの移動の時間のため、最後まで学会参加することができませんでした。オンデマンド配信もあるため、聞きたい発表が聞けない、ということがなくなりました。（40代・看護師）

WEB参加の恩恵②

現在、WEB視聴が可能となる前は、教育講演は会場参加が必須でしたので、離れた会場から移動する場合は、参加を諦めていました。

また、会場が大変混雑するので、入場のために早くから並んで待っていました。当時を思い出すと、かなり快適になったことに気づきます。（50代・医師）

ハイテク化

口演は、当時事前（発表の10日位前）にスライドを作成してくれる業者に原稿を依頼する必要があり、採択の通知（35年前は郵送でした！）が届いてから急いでスライドの下案を作成しました。スライドは代金も高く、当時の私にはとても痛い出費だったように思い出されます（1枚700円くらい？×10枚）。



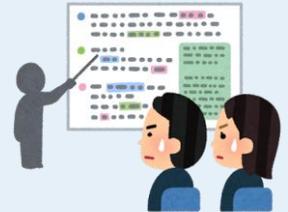
届いたところで間違いに気付いても修正できず、正誤を示しながら発表しました。また、投影機に上下や裏表など、原稿を間違えてセットすると最悪でした。パワーポイント等のプレゼン用ツールは、導入当初、魔法のソフトのように思えました。それらを使って発表できることになった時は本当に大喜びでした。（50代・看護師）



学会で楽しみにしていること

参加すると得られるものが多い

学会では様々なシンポジウムや教育講演、演題発表等があり、プログラムをよく見て、自分の「推し」の先生の講演を聞くことも楽しみの一つだと思います。（40代・看護師）



普段忙しい臨床では、なかなかじっくり糖尿病に関してだけ考える機会が少ないのですが、学会に参加すると、自施設に戻ってあんなことやこんなことをうちの病院でもやってみたらどうだろう、などアイデアが湧いてきます。（40代・理学療法士）



認定看護師の同期や同僚と会い、近況などを語り合う場にもなります。お互いに励ましあい、モチベーションを高めてまた明日からがんばろうという気持ちになります。（40代・看護師）



企業展示を回り最新の薬剤や機器に触れ、学ぶ機会を持てます。

参加の都度、お祭りのような気分で回るのを楽しみにしています。（40代・臨床検査技師）





学会で楽しみにしていること

知識の向上だけじゃない “交流の時間も大切に”

学会に合わせて、移動や待ち時間での交流を計画するのも楽しみの1つです。

友人がいる地域で学会がある場合は、早めに連絡して会えるよう調整していました。

(40代・看護師)



学会会場の近くの観光地では、同じコンgresバッグを持った人を見かけます。

四国の学会では観光船の乗客が皆同じバッグを持っていたので、船長さんに「皆さん同じグループですか？」と聞かれたことがありました。

(50代・看護師)

発表前は観光や食事を楽しめないこともありますが、ご当地の美味しいものを食べる機会もあり、チームの親睦を図る機会としてよい時間を過ごすことができます。(50代・看護師)



ご注意

所属施設の就業規則に従って学会参加をお楽しみください。



学会で楽しみにしていること

知識の向上だけじゃない “交流の時間も大切に”

学会参加を終えて、空港に向かうバスの中で、搭乗予定の飛行機が機材トラブルで出発時間が遅延することがわかり、先輩達と憂鬱な気持ちで座っていたら、私が質問した施設の方々が「質問ありがとう」と、声をかけてくださいました。

色々話しをしていたところ、この方々も同じ飛行機に乗る予定であることがわかり、せっかくだから待っている間に「お茶でもしよう！」と、ちょっとした宴会が開かれました。

結局、空港から飛行機は飛ばず、別の空港までバスで移動しなければいけなかったのですが、学会で他施設の方々と知り合うことができたおかげで、楽しく待ち時間を過ごすことができました。

(40代・管理栄養士)



学会開催地が地方の場合、ホテルの数に限りがありますので、早めの宿泊予約をお勧めします。

また、最近では旅行者が増え、宿泊料金が上がっていることにも注意が必要と思います。(50代・医師)





学会を楽しむための基本情報

日本糖尿病学会年次学術集会での主な枠組み

各年の年次学術集会の詳細は、ホームページで案内されています。

ご参加される際には、その回のご案内を必ず確認し、したがってください。

■ 会長講演：

年次学術集会で重要な点のまとめ、糖尿病学の歴史、会長ご自身の研究の歴史など、俯瞰的な視点で語られる講演。

■ 特別講演：

普段は聴講できない特別な演者による講演や、海外の著名な講師による講演。海外の演者の場合には同時通訳がある場合も。

■ シンポジウム：

テーマは最近注目されていること、以前から継続している内容等、多岐にわたる。テーマに沿って①数名の演者による講演②演者によるディスカッション形式で行われることが多く、この数年はシンポジウム数が増えている。

■ 一般演題：

口演発表、ポスター発表がある。興味がある分野や、これから研究しようとする分野に注目して聴講し、質問を行ってみるのも良い。

■ 共催セミナー：

モーニングセミナー、ランチョンセミナー、イブニングセミナーがある。参加方法は学術集会ごとに変わるので、予め調べておくが良い。

■ 教育講演：

現在はWEBでの聴講形式となることが多い。



学会を楽しむための基本情報

日本糖尿病学会年次学術集会での主な枠組み（つづき）

各年の年次学術集会の詳細は、ホームページで案内されています。

ご参加される際には、その回のご案内を必ず確認し、したがってください。

■ YIA（若手研究奨励賞・Young Investigator Award）審査口演：
若手医師にお勧め。

■ 医療スタッフ優秀演題賞 審査口演：
医療スタッフにお勧め。

■ リス☆カン（糖尿病療養支援ロールプレイセミナー）：
患者役、指導士役、オブザーバー（観察者）役をそれぞれ交互に行い、
他者から自分の療養支援に対するフィードバックをもらうことによっ
て、①自身の医学的知識やコミュニケーションスキルを確認し、②療
養支援に対する自身の新たな「気づき」や「自信」を得ることを目指
す実践形式の企画。

学会発表までの流れ

■ 演題登録：

日本糖尿病学会年次学術集会の場合は概ね前年の10月～12月初旬で登
録する。

■ 演題応募の資格（2025年度 第68回の場合）：

筆頭演者または共著者のうち少なくとも1人は日本糖尿病学会会員であ
ること、もしくは応募時に入会申請中であることが必要。

糖尿病療養指導に関する発表の場合は、糖尿病学会会員でなくても応
募することができる。

*YIA、医療スタッフ優秀演題賞への応募は登録時に行う。



学会を楽しむための基本情報

実際に発表することになったら

各年の年次学術集会の詳細は、ホームページで案内されています。

ご参加される際には、その回のご案内を必ず確認し、したがってください。

1. スライド作成：

発表時間で口演スライド、ポスターの枚数を調節する（一般演題7分、YIA・医療スタッフ優秀演題賞審査口演8分、ポスター3分）※。

※発表時間は回によって変更となる可能性があります。

2. 発表の予行演習：

自施設で実際の発表時間で発表の予行演習を行う。発表時間の調節、スライドの細かい調整、質問対策などを共同演者と共に検討する。

3. 発表当日の準備：

口演発表は発表データ受付でUSBフラッシュメモリでデータの登録と試写を行う。ポスター発表は指定された掲示の時間でポスターを貼る。

4. 発表：

口演の進行時間は卓上のランプで発表時間の終了1分前に「黄色ランプ」が点灯し、発表時間の終了時に「赤ランプ」が点滅する※。

ポスター発表は座長が司会とタイムキーパーを務める。

※回によって変更となる可能性があります。